

## 第 2 学年 英語科 学習指導案

### 1 単元名

NEW HORIZON English Course 2 Unit5 A Park or a Parking Area?

### 2 単元の目標

本単元では、従属接続詞 (if, that, when, because) を学習する。従属接続詞を用いることで、条件や理由、意見や考えなどをより具体的に説明したり、描写することができるようになる。相手の意図や書かれている情報を正確に読み取ったり、自分の伝えたい事を表現したりすることで、実践的コミュニケーション能力を養いたい。

また、本単元では身近な「地域の問題」が議論に発展し、新聞記事に掲載されるという内容が扱われている。身の周りで起こっている事実や問題と照らし合わせながら、自分の意見をまとめ、積極的に相手に発信しようとする態度を育てたい。

### 3 単元の評価規準

- 従属接続詞を用いて、積極的に情報を発信したり自己表現したりしている。  
(コミュニケーションに対する関心・意欲・態度)
- 意見文や新聞記事などを読んだり聞いたりして、書き手や話し手の伝えたい事を理解している。  
(外国語理解の能力)
- 従属接続詞を用いて、事実や意見を話したり書いたりして伝えている。  
(外国語表現の能力)
- 従属接続詞 (if, that, when, because) を用いた文の形・意味・用法を理解している。  
(言語や文化についての知識・理解)
- 英語で賛成・反対を述べたりその理由を伝えたりする方法や、英字新聞の見出しや記事の特色を知る。  
(言語・文化についての知識・理解)

### 4 単元と指導の構想

#### (1) 単元と生徒

##### ① 単元観

本単元では、従属接続詞 (if, that, when, because) を学習する。接続詞を使うことで、二つの文が主節と従属節からなる一つの文になることから、文が長くなったり、主語や動詞が 1 文に二つ以上出てきたりすることになり、英語に苦手意識のある生徒にとっては「難しい」と感じることもあるかもしれない。

従属節が主節の前にも後にもくる点についても混乱が予想される。まずは分かりやすい英文を提示し、英語を使いながら用法を理解することに重点を置きたい。また、口頭練習を十分に行い、音声と語順を結び付け、定着を図りたい。

本単元において、従属接続詞を中心に学習することで、一段と表現できる事柄が増える。if 節や when 節では条件を表す文を、because 節では理由を述べる文を表すことができる。また that 節では I think (that)~. や Do you know (that)~? などのように、実際の会話で多用する表現を習得する。まずは生徒の興味・関心を引き付け、自分の伝えたい事を積極的に表現したいという意欲につなげたい。英文をつくる際には、基礎的なパターンプラクティスから始め、段階を踏みながら創作的な英文で表現できるように進め

ていきたい。

題材は、平和市で起こった小さい女の子の事故をきっかけに、現在ある公園を駐輪場に作り替えるかどうかという議論に発展していく内容となっている。近年は公共のマナーの話題をよく耳にすることもあり、生徒にとって、身近なテーマと言える。賛否の論点を整理し、自分の意見をまとめる活動を通し、身の周りの問題を解決していこうとする姿勢を育てたい。

## ② 生徒観

授業態度は落ち着いており、話の聞き方、ノートの取り方、言語活動への取り組み方など、授業に向かう基本的な姿勢はきちんとしている。積極的に挙手をするなど授業に意欲的な生徒が多い。しかし、既習事項が定着しておらず、1年生の内容からつまずきを感じている生徒もいる。6月に実施したアンケートで「これまで習った英語の文法はおよそ理解できていますか。」の問いに対して「困難を感じる。」と回答した生徒の割合が41%であった。

これから学習する文法事項については、新出基本文の構造と意味をしっかりと理解し、それをを用いて自己表現できるように指導することが必要である。また同時に、既習事項についても授業時間内で復習し、定着を図ることで新しい学習内容を理解する上での素地となるように支援したい。

## (2) 自己課題解決に向けた指導の方策

生徒の実態を受け、「授業における既習文の復習と新出基本文導入の工夫～基本的な文法事項を的確に身に付けることを目指して～」を研修テーマに設定する。授業の中で①既習文法事項を再確認すること、②新出基本文を定着させること、の二つの達成を目指し指導していきたい。

### ① 授業の指導過程の工夫

- ・Warm-up & Review: チャイム学習として、1年時の内容の練習プリントを行う。Greeting の後に文法説明と口頭練習を行う。短時間ででき、かつ個人の能力に応じて進められるように工夫することで、全員が意欲的に取り組める活動にする。
- ・Presentation: 導入、板書、説明、ノート書き取りの流れをスムーズに行う。既習事項と新出基本文との対比で意味や構造の違いに注目させる。生徒にとって身近で興味がわくような場面設定にする。板書はポイントを押さえつつ簡潔に書く。生徒との Interaction を充実させ、和やかな雰囲気を進める。
- ・Practice: 基礎的なパターンプラクティスから始め、創作的な英文で表現できるような活動を設定する。ふんだんにテンポよく行うことで文の構造を確実に身に付けさせたい。

### ② 学習内容の定着度を測る

- ・チャイム学習プリントの取組で、既習事項が定着しているか、つまずいているのはどこかを把握する。
- ・Presentation の中で板書された新出基本文の意味を予測する活動を取り入れる。
- ・授業の最後に定着度確認問題を行う。授業後に正答率を把握する。
- ・ワークシートに自己評価欄を設け、生徒自身が授業の振り返りをできるようにする。

## 5 単元の指導計画（全9時間）

時	○学習のねらい ・主な学習活動	評価の観点				
		関	理	表	知	具体的内容
1	○ if節を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現できる。 ・教師の発問から if節の意味に気づく。 ・drill(speaking) ・communicative activity (speaking/ writing)			○	○	・接続詞の役割を把握する。 ・if節の意味と役割を理解する。 ・if節を用いて、条件にあった作文を書くことができる。 ・インタビュー活動で情報交換することができる。 ・新出単語の発音と意味を理解する。
2 本 時	○ that節を用いた文の型・意味・用法を理解し、それを用いて自分の意見を表現できる。 ・教師の発問から that節の意味に気づく。 ・drill(speaking) ・communicative activity (writing/ speaking)			○	○	・that節の意味と役割を理解する。 ・ペアで意見を交換し合うことができる。 ・that節を用いて自分の意見を書き表すことができる。
3	○ 本文(Starting Out, Dialog)の内容理解。		○		○	・新出単語の発音と意味を理解する。 ・Faxの内容とそれに関する対話文の内容を読み取る。 ・対話文を音読する。
4	○ when節を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現できる。 ・教師の発問から when節の意味に気づく。 ・drill(speaking) ・communicative activity (speaking/ writing)			○	○	・when節の意味と役割を理解する。 ・when節を用いて、条件にあった作文を書くことができる。 ・インタビュー活動で情報交換することができる。
5	○ because節を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現できる。 ・教師の発問から because節の意味に気づく。 ・drill(speaking) ・communicative activity (speaking/ writing)		○	○	○	・because節の意味と役割を理解する。 ・インタビュー活動で理由を述べることができる。 ・because節を用いて自分の意見をまとめることができる。
6	○ 接続詞を用いた文の復習 ○ 本文(Reading for communication「記事を書こう」)の内容理解。			○	○	・新出単語の発音と意味を理解する。 ・新聞記事の内容を理解する。
7	○ 接続詞を用いた文の復習 ○ 本文(Reading for communication「意見を述べよう」)の内容理解。 ○ 投書の意見を参考に、簡単に自分の意見を述べることができる。	○		○	○	・新出単語の発音と意味を理解する。 ・投書欄の意見文の内容を理解する。 ・内容に対して、賛否とその理由を簡単に述べる。

8	○ (Reading for communication「新聞記事」) 5 W 1 Hを使った明確で、簡単な記事を書くことができる。 ○ 英字新聞の特色を知る。	○	○	○	・メモの情報をもとに、記事となる英文をつくる。 ・英字新聞の特色に気付き、日本の新聞の特色と比較することができる。
9	○ 文法事項のまとめ ・まとめと練習/Listening Plus 5			○	・練習問題を解くことができる。 ・対話を聞き取り内容を理解する。

## 6 本時の学習（指導全9時間、本時2時間目）

### (1) 本時のねらい

- 既習文法事項（1年生三単現の内容）を使って、英語を話すことができる。
- 教師との英語のやりとりの中で、that節を用いた英文の意味と文の構造を理解することができる。
- I(don't) think that～. を用いて自分の意見を書き表したり、述べたりすることができる。

### (2) 本時の構想

本時のねらいを達成するために、以下の点に留意して指導したい。

#### ① Warm-up & Review

チャイム学習として毎時間行っている既習内容の復習プリントを実施する。既習内容の確認をするとともに英語学習を始めるための動機付けとなるように集中して取り組ませたい。

#### ② Presentation

生徒と英問英答を行いながら that を導入する。既習内容と新出内容の対比を明確にし、生徒の意見を引き出しながら I know that～./I think that～. を使うことで自然な会話の中から意味を理解させたい。基本文を板書した後、英文の意味を予測し用紙に記入させることで、どの程度理解できているかを確認する。文の構造の説明や板書を分かりやすく簡潔に行う。

#### ③ Practice

基本文の反復練習後、パターンプラクティスを行い、文の構造をしっかりと身に付けさせたい。ペアワークでは Do you think that～? を使って意見を交換し合う。自信をもって伝えられるように口頭練習を十分に行う。その後、教師が提示したキーワードを使って英作文をする。that節が文（主語+動詞）になることを確認しながら進める。発表の際はクラスメイトの考えに同意、反対することで全員が参加できるようにする。

#### ④ Consolidation

定着度確認問題を行い、今日の学習内容を確認する。自己評価をし、本時の取組を振り返る。

### (3) 本時の展開と評価

学習内容・活動	主な教師の働きかけと生徒の反応	指導上の留意点と評価
Warm-up&Review チャイム着席学習 〈プリント学習〉 (8min.)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・係の生徒がプリントを配布。</li> <li>・各自でプリントの基本問題に取り組む。 (3問終わった生徒は「追加問題」をする。)</li> <li>・ペアで答え合わせをする。</li> <li>・教師とクラス一斉のあいさつをする。</li> <li>・教師が文法事項のポイントを説明する。</li> <li>・口頭練習を行う。(全体)</li> <li>・暗唱テストを行う。(ペア)</li> <li>・ファイルにとじ My Check List を記入する。</li> </ul>	<p>留：下位生徒への支援⇒【机間指導】</p> <p>留：ポイントを押さえつつ、簡潔に説明する。</p> <p>評：既習内容を使って英語を話せたか。 ⇒【プリントの記入状況】</p>

<p>Presentation 新出基本文の導入 (13min.)</p> <p>① 場面の設定</p> <p>② 基本文の引き出し</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽を聴き、曲名とアーティスト名を話題にする。</li> <li>・写真を見せ、コンサートについて話題にし、既習文を提示する。</li> </ul> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">They will come to Niigata in next February. ①Do you know that?</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動詞 know の意味を確認。</li> <li>・基本文②を提示し、○×カードを見せながら自分について挙手させる。</li> </ul> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">② I know that they will come to Niigata. or I don't know that they will come to Niigata.</p>	<p>留：生徒との interaction を図りながら和やかな雰囲気を進める。</p> <p>留：生徒の興味を引き付ける。</p> <p>留：基本文はゆっくり、はっきり発音する。</p> <p>評：全員が②③の文の意味を予測しながら聞きとっているか。⇒【見取り】</p>
<p>③ 基本文の意味の確認</p> <p>④ 文法事項の説明</p> <p>⑤ 板書事項のノートへの転記</p> <p>⑥ 基本文の反復</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アーティストについて人気の秘密を話題にする。生徒が日本語で意見を言う。</li> <li>・基本文③を提示する。</li> </ul> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">③ I think that their songs are nice.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動詞 think の意味を確認。</li> <li>・基本文②③の意味を予測し、用紙に記入する。</li> <li>・答え合わせをする。</li> </ul> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">接続詞 that+文 「～ということ」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本文の文の構造を説明する。</li> <li>・板書内容をノートにまとめる。</li> <li>・基本文を声に出して発音練習をする。</li> </ul>	<p>留：できる範囲で書くように伝える。</p> <p>評：基本文の意味を予測して書くことができているか。</p> <p>⇒【用紙の記入状況】</p> <p>留：簡潔にポイントを押さえながら説明する。</p>
<p>Practice(1) (12min.)</p> <p>① 全体練習</p> <p>② 個人練習</p> <p>③ ペア活動</p>	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ア～エの文について意見を述べる英文を作り練習してみよう。 I think that～./ I don't think that ～.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パターンプラクティス（口頭練習）を行う。</li> <li>・自分の意見でどちらかを選択し、個人で口頭練習をする。</li> <li>・ペアになり、Do you think that～?を用いて相手に尋ねる。</li> </ul>	<p>留：テンポよく進める。強弱やイントネーションに気を付けてリピートさせる。</p> <p>留：下位の生徒には席の近くで支援する。</p> <p>評：口頭練習で英文をきちんと言うことができているか。</p> <p>⇒【見取り】</p>

<p>Practice(2) (12min.)</p> <p>① Writing</p> <p>② 発表活動(全体)</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>学んだことを使って、自分の意見を述べる英文を書いてみよう。(2問)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ that (主語+動詞) になることを確認する。</li> <li>・ ワークシートに個人で英作文する。</li> <li>・ 意見に同意・反対する言い方を紹介する。</li> <li>・ 自分の意見をクラスの前で発表する。</li> <li>・ 教師は板書する。</li> <li>・ クラスメイトの意見に I think so, too. / I don't think so. を用い、同意または反対をする。</li> <li>・ 英文を書けなかった生徒は、板書を見て自分の意見に近いものを書きとる。</li> </ul>	<p>留：机間指導をし、下位の生徒には支援を、できている生徒には自主的発表を促す。</p> <p>評：キーワードを使って英文を書くことができるか。</p> <p>⇒【ワークシートの記入状況】</p> <p>留：必ずどちらかに挙手するように促し、自分の意見をもたせる。</p>
<p>Consolidation (5min)</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>定着度確認問題をやって今日のまとめをしよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 答え合わせをする。</li> <li>・ 本時のポイントを確認する。</li> <li>・ ワークシートの自己評価欄を記入する。</li> <li>・ 教師が次回の授業の連絡と宿題を伝える。</li> <li>・ あいさつをする。</li> </ul>	<p>評：学習した文法事項が身に付いているか。</p> <p>⇒【ワークシートの記入状況、自己評価で確認】</p> <p>評：積極的に自分の意見を述べたり、相手の意見を聞いたりすることができたか。</p> <p>⇒【自己評価欄で確認】</p>